

2016年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリング



日 時： 2016年5月20日（金） 16:00～17:00

会 場： フクダ電子株式会社 本郷新館



目次

連結業績	3	フクダ電子の経営理念	9
連結業績 5カ年推移	4	経営環境の変化	10
セグメント別売上高 3カ年推移	5	3つの取り組み	11
販売費および一般管理費	6	・事業基盤の強化	12~14
為替変動の業績への影響	7	・製品力の強化	15~19
		・販売体制の強化	20~22
		中期業績目標	23
		株主還元方針	24



2016年3月期 決算概要

連結業績



単位：百万円	2015.03 (14年度)	2016.03 (15年度)	増減額	増減率
売上高	108,269	117,222	+8,953	8.3%
売上総利益	48,302	48,606	+303	0.6%
販売費及び一般管理費	37,999	37,956	-42	-0.1%
営業利益	10,303	10,649	+346	3.4%
経常利益	11,371	10,934	-437	-3.8%
当期純利益	7,119	7,368	+248	3.5%

3

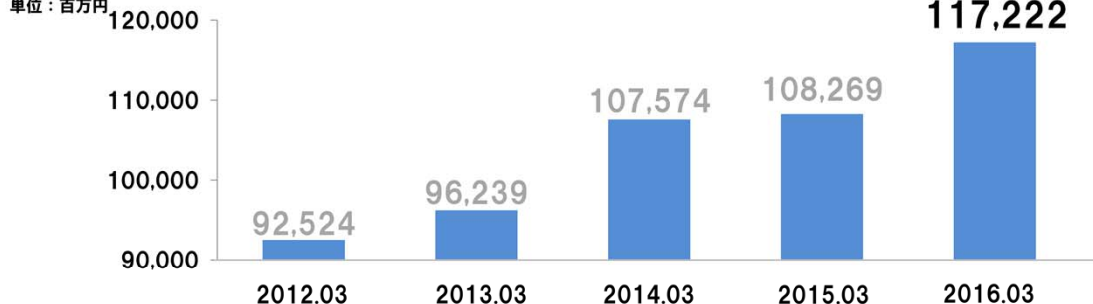
- 当社の2016年3月期の連結業績概要です。
- 当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用関連指標において改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移しました。
- 医療機器業界においては、平成28年度診療報酬は全体としてマイナス改定となり、医療機関には引き続き効果的・効率的で質の高い医療の提供が求められております。
- このような経済状況の下、当社グループの当連結会計年度の連結売上高は1,172億22百万円（前年同期比8.3%増）となりました。利益につきましては、連結営業利益は106億49百万円（前年同期比3.4%増）、連結経常利益は109億34百万円（前年同期比3.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は73億68百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

連結業績 5カ年推移



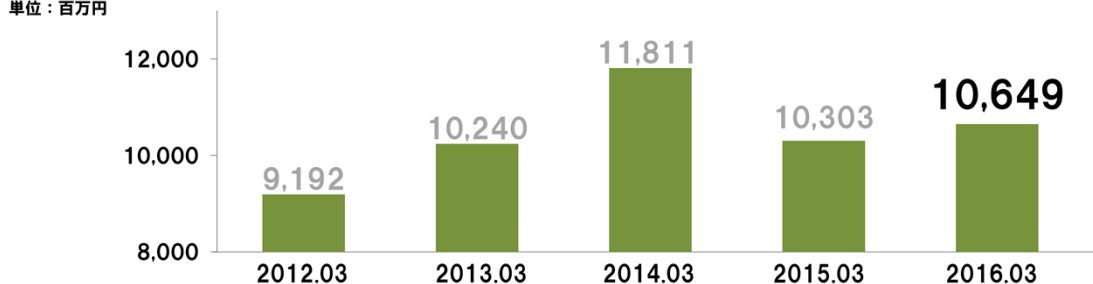
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円

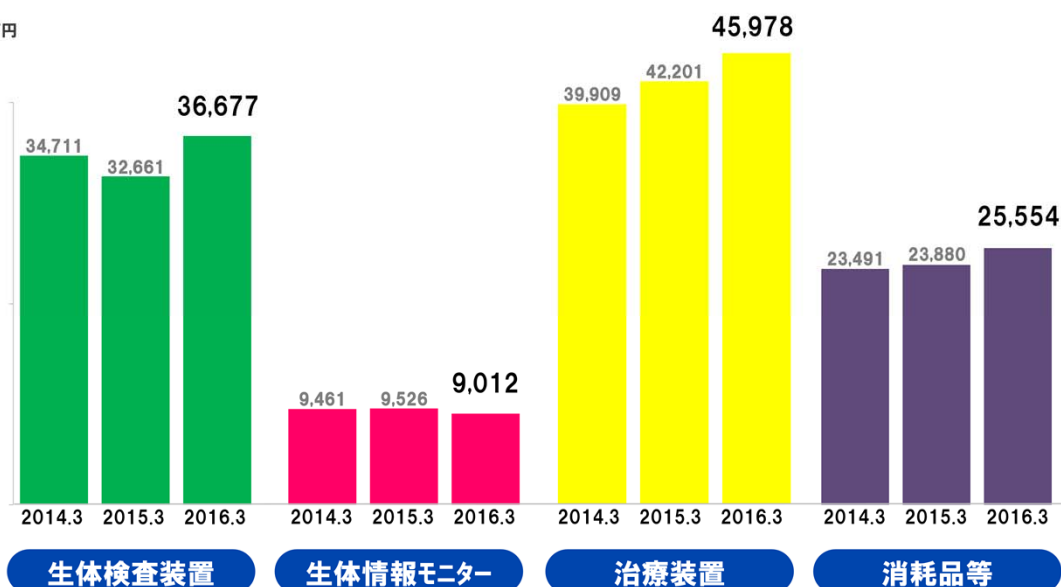


4

- 連結業績の過去5カ年の推移になります。
- まず2012年3月期からの売上高の推移になります。
- 2012年3月期と比較すると2016年3月期は246億98百万円の増収、前年比では89億53百万円の増収となっています。
- 一方で2012年3月期からの営業利益の推移になります。
- 2012年3月期と比較すると2016年3月期は14億57百万円の増益、前年比では3億46百万円の増益となっています。

セグメント別 売上高 3カ年推移

単位：百万円

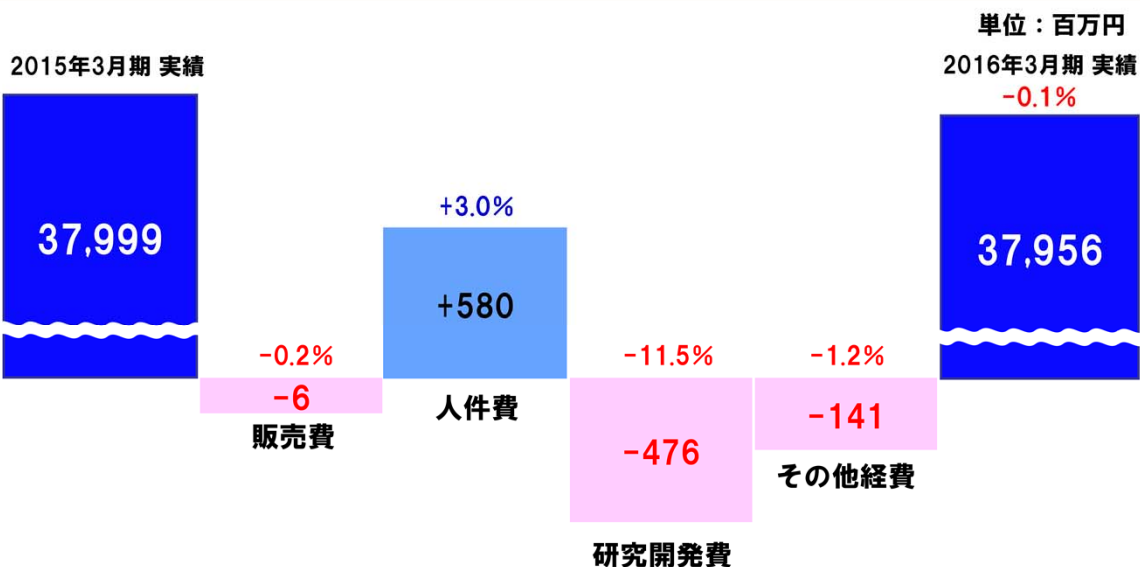


治療装置は、在宅医療向けレンタル事業、ペースメーカーの売上が伸張り、増収となる。

5

- セグメント別の概況になります。
- 生体検査装置につきましては、心電計関連、血圧脈波検査装置、血球カウンター等の連結売上高は366億77百万円（前年同期比12.3%増）となりました。
- 生体情報モニターにつきましては、連結売上高は90億12百万円（前年同期比5.4%減）となりました。
- 治療装置につきましては、在宅医療向けレンタル事業、ペースメーカーの売上が伸張り、連結売上高は459億78百万円（前年同期比9.0%増）となりました。
- 消耗品等につきましては、連結売上高は255億54百万円（前年同期比7.0%増）となりました。

販売費および一般管理費



**販売会社の人員増強により人件費は増加。
研究開発費は日本ステントテクノロジー社の負担が減少。**

6

- 販売費および一般管理費は、全体では42百万円減少しています。
- 内訳としては、販売力強化などのため人件費が前年比で5億80百万円の増加となりましたが、研究開発費は、日本ステントテクノロジー社の負担が減少したため、4億76百万円の減少となりました。

US\$が1円変動した場合

約6百万円の影響

ユーロ€が1円変動した場合

約11百万円の影響

通貨		2015.03 (14年度)	2016.03 (15年度)	2017.03 (16年度)
US\$	実勢レート	109円	121円	—
	社内レート	103円	120円	120円
ユーロ€	実勢レート	139円	133円	—
	社内レート	140円	141円	130円

7

○為替変動の業績への影響については、US\$が1円変動した場合は約6百万円、ユーロ€が1円変動した場合は約11百万円の影響がございます。なお、円安に推移した場合は当社は輸入超過のため業績への影響はマイナスになっています。

○社内レートにつきましては、2016年3月期はUS\$を120円、ユーロ€を141円で設定していましたが、2017年3月期はUS\$を120円、ユーロ€を130円で設定しております。

中期経営計画

○中期経営計画のローリングになります。

経営理念

社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、
医学の進歩に寄与する

経営基本方針

安全・安心・快適を基軸とした
「お客様に信頼される企業」となり、
予防・検査～治療～経過観察・リハビリ～在宅
まで地域医療を支える製品・サービスをご提供

9

○当社は「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する」という経営理念の下、医用電子機器メーカーとして、安全・安心・快適を基軸とした「お客様に信頼される企業」となり、予防・検査～治療～経過観察・リハビリ～在宅まで、地域医療を支える製品・サービスをご提供することを経営の基本方針として掲げております。

診療報酬改定のポイント

2016年4月 診療報酬（本体） +0.49%

- ・効果的・効率的で質の高い医療提供体制の構築
- ・地域包括ケアシステムの推進と医療機能分化・連携の充実（かかりつけ医の普及・在宅医療）

地域医療構想（ビジョン）の策定・具体化

- ・2025年の医療需要、目指すべき医療提供体制（必要病床数等）
 - ・目指すべき医療提供体制を実現するための施策
- 病床機能報告制度、地域医療構想から現状と医療機能ごとの将来の病床数の必要量を地域の医療機関等で共有したうえで、自主的な医療機関の分化・連携を推進

消費税率の引き上げ

2017年4月（予定） 8%→10%

10

○当社の経営を取り巻く外部環境としては、少子高齢化に伴う社会保障制度改革やマクロ経済の動向などが挙げられます。

○具体的には、まず診療報酬ですが、2年毎に改定され、その内容により当社の業績に大きなインパクトが生まれる可能性があります。今年4月の改定では、少子高齢化等を背景に医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等、地域包括ケアシステム構築の推進が謳われておりますが、診療報酬本体部分は0.49%のプラスという改定内容となりました。

○また、2025年の医療需要を見据えて、各都道府県において、あるべき医療提供体制の実現のための地域医療構想（ビジョン）の策定が実施されております。

○一方で、消費税率の引き上げの影響につきましては、2017年4月に8%から10%への引き上げが予定されています。

3つの取り組み

事業基盤の強化

予防・検査から在宅まで一貫した医療環境の提供

製品力の強化

循環器・呼吸器分野を中心とした
豊富なラインナップ

販売体制の強化

拠点拡充による地域密着体制のさらなる充実

11

○このような外部環境を踏まえ、当社としては「事業基盤の強化」「製品力の強化」「販売体制の強化」の3つの取り組みをすすめてまいります。

3つの取り組み

事業基盤の強化

予防・検査から在宅まで一貫した医療環境の提供

製品力の強化

循環器・呼吸器分野を中心とした
豊富なラインナップ

販売体制の強化

拠点拡充による地域密着体制のさらなる充実

○一つ目の取り組みが、「事業基盤の強化」です。

予防・検査 → 治療 → 経過観察・リハビリ → 在宅
一貫した医療環境を提供



地域医療を支えるビジネスモデル

13

○具体的には、予防・検査→治療→経過観察・リハビリ→在宅の地域医療を支える一貫した当社独自のビジネスモデルにより、医療機関などにおける効率的な医療サービス実現を支援してまいります。



- こちらが当社の事業領域を概観したものです。左から予防・検査、治療、経過観察・リハビリ、在宅の領域になります。
- 予防・検査分野では脳波計や心臓カテーテル用検査装置、心電計・ホルタや血圧脈波検査装置、超音波画像診断装置などの品揃えがございます。
- 治療分野においてはPTCAカテーテル、ペースメーカ、AED、人工呼吸器に加え、麻酔システムなどを取り扱っております。
- 経過観察・リハビリ分野では、生体情報モニタやテレメータ送信機、心臓運動負荷モニタリングシステムなどをご提供しております。
- 在宅分野においては、酸素濃縮装置やパルスオキシメータ、在宅用人工呼吸器や睡眠時無呼吸症候群の治療で使用する持続的自動気道陽圧ユニットなどの製品を取り扱っております。

3つの取り組み

事業基盤の強化 予防・検査から在宅まで一貫した医療環境の提供

製品力の強化

循環器・呼吸器分野を中心とした
豊富なラインナップ

販売体制の強化 拠点拡充による地域密着体制のさらなる充実

15

- 2つ目の取り組みが、「製品力の強化」です。
- 当社は、循環器・呼吸器分野を中心とした豊富なラインナップをご提供しています。

精密検査～低侵襲治療～リハビリまで

精密検査

心臓カテーテル用検査装置



各種心臓検査用カテーテル

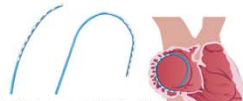


冠動脈に造影剤を注入し血管の詰まりを診断



フクダ造影カテーテル
トレール

心臓内部に微弱電流を流し不整脈発生部位を診断



心臓用カテーテル型電極
Fe-po電極カテーテル

治療

1.5T/3T MRI検査対応
ペースメーカー



さまざまな病変に対応
PTCAカテーテル



リハビリ

心臓運動負荷
モニタリング
システム



不整脈から血管の詰まりまでトータルサポート

16

- 循環器分野での具体的な取り組みですが、心電計やホルタ心電計によるスクリーニングから、心臓カテーテル用検査装置による精密検査、ペースメーカーやPTCAカテーテルによる治療、不整脈から血管の詰まりまでトータルでサポートする製品・サービスをご提供しております。

インターネットを利用した指導管理・機器管理

自宅

療養中の生体情報や
機器稼働状況を記録



医院

計測された数値を医師が確認



より適切な
指導管理への活用

パルス
オキシメータ



専用サーバ

フクダ
ライフテック

機器動作状況の確認

セキュリティー
対策も万全



より安全・安心・快適な療養環境を実現

17

- 在宅医療分野においては、Webサイトを通じてパルスオキシメータを使用して測定した患者様の生体情報や、酸素濃縮装置の機器使用状況が確認できるサービスをご提供しております。
- 療養中の患者データを医院内で分析することにより、より正確な在宅酸素の処方判断が可能となり、疾病管理への新たなご提案となっております。
- また、安全・安心への取り組みとして、機器の動作状況をインターネットを通じて確認し、より適切な機器のメンテナンスを実施しております。

医療シーンに応じた生体情報モニタラインナップを拡充

救急搬送	オペ室	ICU	病棟
軽量・コンパクト	優れた操作性	多彩なカスタマイズ性	モニタ波形を管理
			
			
ベッドサイドモニタ DS-8007システム	ベッドサイドモニタ DS-8400システム	解析機能付き セントラルモニタ DS-8700システム	DynaBase II CVW-8000 統合型モニタ管理 システム CVW-8000

救急から病棟まで医療環境の向上を実現

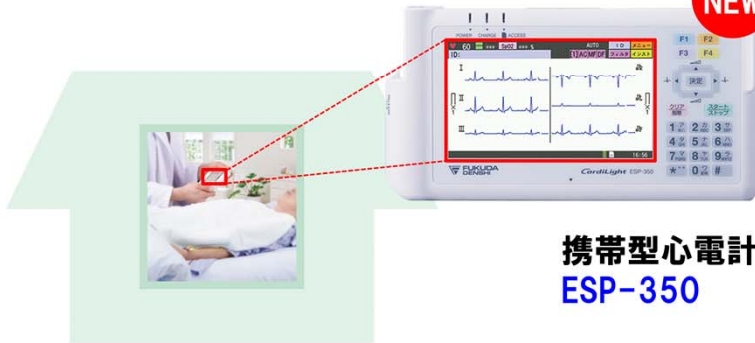
18

- こちらでお示ししておりますのが、病院市場における取り組みになります。
- 救急搬送から病棟における経過観察まで、医療シーンに応じた製品ラインナップをお客様のニーズに合わせてご提案しております。

シンプルかつ確実な検査とインフォームドコンセントの充実

訪問診療や往診時のアイテムとして

訪問先で心電図をとって、その場でチェック



携帯型心電計
ESP-350

検査をよりシンプルに
より使いやすく

これ1台で『血圧と動脈硬化測定』



血圧脈波
検査装置
VS-2000

検査データの一元管理

時系列比較で患者の意識付けに



検査データ
ビューソフト
FEV-80

「かかりつけ医」機能を総合的に支援

19

- 診療所市場においては、よりシンプルで確実な検査とインフォームドコンセントの充実を実現する各種製品をご提供しております。
- 具体的には、訪問診療や往診時のアイテムとして、コンパクトながらも12誘導解析可能な携帯型心電計などの製品をご提案しております。
- また、1台で血圧と動脈硬化が測定できる新しい血圧脈波検査装置には、患者さんにもわかりやすいカラーレポート機能が搭載されております。
- さらに、検査データを一元管理し、検査結果をその場で説明できるビューソフトなどによるインフォームドコンセントの充実を図り、「かかりつけ医」機能を総合的に支援しております。

3つの取り組み

事業基盤の強化 予防・検査から在宅まで一貫した医療環境の提供

製品力の強化 環境器・呼吸器分野を中心とした
豊富なラインナップ

販売体制の強化 拠点拡充による地域密着体制のさらなる充実

20

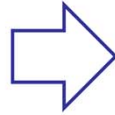
○最後に3つ目の取り組み、「販売体制の強化」です。

より地域密着を目指したサービス網の充実

2012年4月当時

2016年4月現在

全国160カ所



全国194カ所



フクダ電子南関東販売（株）
フクダライフテック常葉（株）



フクダ電子中部販売（株）
フクダライフテック中部（株）



フクダ電子新潟販売（株）



業界最多規模の国内拠点数

21

- 当社は、グループの特徴を活かし、今後もより地域密着を目指したサービス網の充実を進めてまいります。
- 2012年4月と比較すると、全国160カ所の拠点が2016年4月現在で34カ所増加しており、業界最多規模の拠点数となっております。

災害時業務支援システム フクダレスキューWeb

災害情報（警報）を
いち早く把握

災害発生

被害状況を把握
災害対策本部設置

療養者の所在を確認
ポンペなど物資の供給

震度5以上で緊急事態
を知らせるメールを
全営業マンに自動配信



療養者の安否確認など
迅速な対応が可能に



全国80箇所以上に
衛星電話回線を配備



災害の発生前～発生後まで在宅療養者の安全をサポート

22

- さらに、安全・安心への取り組みとして、在宅療養者をサポートする、災害時業務支援システム フクダレスキューWebを導入しております。
- このシステムでは、地震や台風などの災害情報をいち早く察知し、全営業マンが在宅療養者の安否確認を迅速に行える体制を築いています。
- さらに、被害状況を地図上で把握し、全国80カ所以上に衛星電話回線を配備することにより、災害の発生前から発生後まで在宅療養者の安全をサポート致します。

中期業績目標



単位：百万円	2016.03 (15年度) 実績	2017.03 (16年度) 予想	2018.03 (17年度) 計画	2019.03 (18年度) 計画
売上高	117,222	117,500	119,500	121,500
海外売上比率	4.1%	4.6%	5.1%	5.6%
経常利益	10,934	11,000	11,200	11,400
経常利益率	9.3%	9.4%	9.4%	9.4%
設備投資 (キャッシュフローベース)	7,395	7,400	7,500	7,600
減価償却費 (キャッシュフローベース)	6,586	7,000	7,200	7,400
研究開発費	3,672	3,700	3,900	4,100

23

○中期業績目標につきましては、今期の売上高目標が1,175億円、2019年3月期までに売上高1,215億円の達成を目標としております。

○また、経常利益につきましては、診療報酬改定の予測が難しいことや、消費税率引き上げによる影響なども踏まえ、114億円という目標を掲げております。

○設備投資・減価償却費につきましては、主な内訳は在宅向けのレンタル事業資産となります。

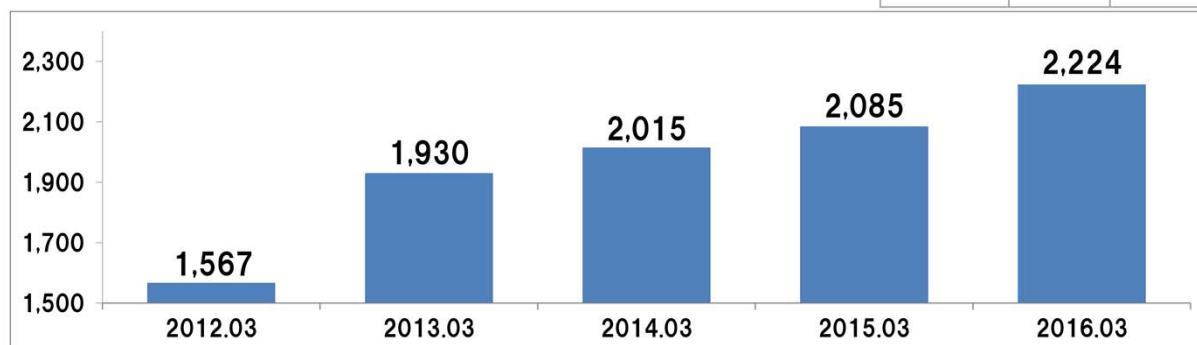
○研究開発費につきましては、引き続き投資を継続して参ります。

基本方針

配当性向を重視し、積極的、継続的な利益還元を行います
 連結当期純利益を基準に配当性向30%を目標とします
 2016年3月期の年間配当金は150円、2017年3月期は
 150円を予定しております

配当性向・配当金推移

2012.03	30.5%	95円
2013.03	30.1%	125円
2014.03	28.1%	145円
2015.03	29.3%	150円
2016.03	29.7%	150円



配当金額推移 (単位: 百万円)

24

- 株主還元方針といたしましては、配当性向を重視し積極的、継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。
- 連結配当性向は30%を目標としており、利益の増加などに伴い毎年配当金は増額となっております。
- 2016年3月期の年間配当金は150円、配当金額は22億24百万円を予定しております。

会社概要

2016年3月末現在

社名	フクダ電子株式会社 FUKUDA DENSHI CO., LTD.
本社	東京都文京区本郷三丁目39番4号
代表者	代表取締役会長 福田 孝太郎 代表取締役社長 白井 大治郎
設立	1948年7月6日（昭和23年）
資本金	46億2,160万円（授權株式数 7,800万株）
事業内容	医用電子機器の開発・製造・販売および輸出入
従業員数	連結：3,409名（内 嘱託・パート 506名） 単体：712名（内 嘱託・パート 91名）
株式	東京証券取引所 JASDAQ上場（証券コード 6960）

コーポレートガバナンスへの取り組み

基本方針 当社は、日々変化する経営環境を的確に把握し対応するとともに、継続的な企業価値の向上、健全で透明性の高い効率的な経営を実現する上で、コーポレート・ガバナンス（企業統治）は経営上最も重要な課題のひとつと位置付けております。

経営の意思決定や監督と業務執行の分離化を図ることで、迅速かつ効率的な経営を実現し、戦略性と機動性に富んだ経営活動を行うことを基本方針としております。

「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する。」を理念に掲げ、「CSR（企業の社会的責任）」への取り組み、各ステークホルダーとの信頼関係を構築し、企業価値の向上に努めていきたいと考えております。

[お断り]

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考に資するために、ご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることが有るため、保証をお約束するものではありません。

この資料に関するお問合せは、下記にお願い致します

経営企画部：鈴木・小澤

TEL: 03-5684-1558 FAX: 03-5684-1577 email: info@fukuda.co.jp

フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷三丁目39番4号

2016年5月 決算説明会資料 証券コード:6960 Copyright 2016 Fukuda Denshi Co., Ltd. All right reserved